

本間俊平 ほんま じゅんぺい キリス下教社會事業家。明治六年八月十五日新潟縣生れ、昭和二十二年八月十二日歿（六三—九四）。號万洋。大工の徒弟を経く大倉組に入り、人足頭として朝鮮に渡る。明治二十年キリス下教に入信。二十五年山口縣秋吉に移住、大理石切出と經營の傍ら免囚保護事業に従事。森鷗外作「鐘一下」のモデル。

著書に『石工の信仰』（大正十一年六月）『千石川隆文館株式會社』、

『東京講演』（昭和五年十一月）『千石川學園出版部』『本間全集』、

『活ける泉—本間先生と村井翁』（村井保固共著、昭和六年八月一日

愛媛・四方文芸館刊）、『新生命の獲得』（昭和七年九月十五日實業

之日本社）、『眞理河に於ける』（破滅が完成の）（昭和八年二月

十二日實業之日本社『本間俊平信仰叢書』）、『本間俊平先生講話—

口堤長發若小傳』奉獻（いづい）（昭和十一年五月五日堤長進編輯）、

『本間俊平先生法言集』（中野聖撰、昭和十一年十一月五日京都・四

方文芸刊『四方叢書』）、『八紘爲宇の大生命』（昭和十八年六月二

十日協和書房）、『婦人の神秘』（昭和十八年七月二十日協和書房）、

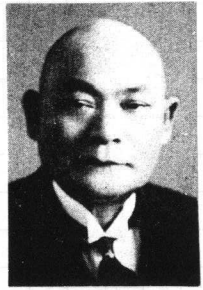
『千古の響』（昭和十八年九月五日協和書房）、『渡』（昭和十八年

十月十五日愛知・中野琳三編輯）等。四方文芸著『山陰の聖戦—本間

先生と田中博士』（第五版・昭和四年五月二十日島根・旬刊）、小原

國芳著『秋吉の聖者本間先生』（六版・昭和五年十一月二十日玉川學園出

版部）、ひがや泥谷良文郎修撰『預言者



本間俊平（七

版・昭和十一年

年二月二十日京都・四方文芸刊『四方叢書』）等

